

茨城農業の将来ビジョン作成に向けた第3回有識者会議 議事概要

- 1 日時 令和5年4月28日（金）15:00～16:40
- 2 場所 県庁17階 農林水産部会議室
- 3 出席者 別添出席者名簿のとおり
- 4 委員からの主な意見

ビジョン策定の趣旨等について

- ・プロ集団やプロの農業者という言葉にやや違和感があるので、この表現を使うのであれば、言葉の定義が分かるようにして頂きたい。自立した農業者という意味であれば農業経営者などの表現も考えられるのではないかな。
- ・全体的として所得向上を図るための方向性が書かれているが、環境への配慮についても内容に入れ込んだ方が良いのではないかな。
- ・30年後を考えるのであれば、マーケットの拡大に向けて、海外の高所得者向けだけでなく、海外のボリュームゾーンを狙っていく意気込みがほしい。
- ・2050年に向けてのビジョン作成ということだとすると、少し悠長な印象を受ける。ビジョンの在り方について考え方を整理しておくべき。
- ・全体的に農業者側の意見が強い内容となっており、消費者側が見えてこない。儲かる農業を考えるのであれば、マーケティング的な売り方の視点や消費者からの視点も必要なのではないかな。

米について

- ・誘致という言葉について、県外や地域外の経営体を重要視して、県内や地域内の経営体を軽んじていると受け止められる可能性があるので使い方に注意すべき。
- ・誘致については事例を踏まえた上で、記載の仕方を整理してもらいたい。また、どういった方を誘致するか良く検討すること、地域の中で共存させていくことが必要ではないかな。
- ・他品目への転換が可能な水田について、施設園芸向けの基盤整備とあるが、露地野菜でも排水条件整備等があるので、あえて施設園芸向けと記載しなくても良いのではないかな。
- ・整備済み地域でも水田と畑地のエリア分けは可能と考えられるので、あえて今後土地改良事業を実施する地域と文中に記載しなくても良いのではないかな。

園芸について

- ・夢のあるビジョンが出来たら良いと考えているので、ネガティブワードから入っている部分は、肯定的な表現に変えてはどうか。
- ・付加価値向上と一言で言っても、イチゴやメロンなどの果菜類と葉菜類では方向性が異なるので、その辺りの違いがわかるような記載にされると良いのではないか。
- ・付加価値向上のために差別化をしても直に一般化される場合が多い。特に葉菜類での差別化はなかなか難しいので、付加価値付けのために有機農業を押し出すなど工夫をやってはどうか。
- ・生産者と消費者を結ぶ I T、商品価値を上げるための I T、人が少なくなる中で労力を最小限にする効率化のための I T の導入など、I T・D Xをどう農業経営の中で取り込んでいくかという視点も必要ではないか。
- ・茨城というものの良さを消費者にいかにつまづいていくか、それがこれからの 30 年で求められること。魅力をいかにつまづいていくか、30 年後と言わずに、明日からでも進めていってほしい。

有機農業、輸出、加工について

- ・有機農業について、学校給食も良い出口として期待されるので、学校給食への展開を入れ込んでどうか。
- ・輸出について、「余剰農産物を輸出するのではなく、～」という書き方は、他の適切な表現を用いた方が良い。
- ・輸出について、健康に良いといった機能性の面も入れ込んでどうか。
- ・加工について、必要な内容は記載されているとは思いますが、30 年後というよりも今取り組んでいる内容が多い印象を受ける。

総括

- ・茨城農業の問題を解決するためには、様々なことに取り組んでいく必要があるが、どれが成功するかは分からない。ただ、誰かが取り組まなければ次のステップに進まないのので、30 年後、茨城で農業をやっていて良かったといえるような取組を検討して、そういったことを本ビジョンに組み込んで頂ければと思う。